二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二の二 東興ビル4F

KSKS ゆいゆい通信

No.125 23.6.27

編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL http://narayuinokai.or.jp

定価 1部50円
年間 300円

◆法人からの報告
「新相談支援事業所立ち上げ」
理事 六十谷 尚美 …1

◆News
◇きたまちクリニック移転 …2

◆Reports
◇ゆいの会利用者実態調査 …3

◆Reports
ぽすと／歩っと地活 …4
こもれび就労／こもれび地活 …5

◆Information
新入職員紹介 …6

◆Thanks
後援会費納入者 …6

高齢化 利用長期化…
新相談支援事業所立ち上げ

寧楽ゆいの会は、5月に指定特定相談支援事業所「アーチ」を立ち上げました。居宅介護（ヘルパー）や通所事業所などの障害福祉サービスを利用する際に計画を作り、利用開始後には、利用者の思いや希望に沿った支援が行なわれているかのモニタリングや、サービス調整を行なう事業です。奈良市から障害者相談支援の委託を受けている「歩っと」も特定相談の指定を受けていますが、歩っとは委託相談支援事業者として、サービス利用に限らない幅広い相談を受けることが大きな役割です。そのため、歩っとではサービス利用希望者が増え、計画相談支援が必要な人が増えている現状に指定特定として対応することが難しくなってきています。

ゆいの会では2020年度から計画相談のあり方について、2021年度からは法人全体の利用者や事業の現状と今後について検討しています。その中で、利用者の高齢化や固定化が見えてきました。これまでと必要な支援が変わってくる際には相談支援の役割が重要になってきます。長期間、同じ事業所を利用し続けることに安心を感じる人もいますが、支援者がその状態を当たり前だと思ってしまうと、他の選択肢や支援に目が向きにくくなります。

利用者自身の、その時々の状況や思いを聞き、必要な情報を提供したり、支援につなげたりする相談支援の役割を強化するための立ち上げです。

【法人の動き】

▼3月に理事会、評議員会を行ない、各事業の令和5年度予算と令和4年度活動報告について報告し、承認されました。

▼新年度、新たに職員2人を迎えました。育児休業から戻ってきた2人も加わり、少しマンパワーに余裕ができました。一方、ぐっどたいむでは長らく登録ヘルパーを募集していますが、なかなか決まりません。このままではニーズはあっても事業所を続けられないのでは、と危惧しています。

▼法律に沿って規定してきた育児・介護のための時短勤務に当てはまらないケースがあったことを機に、必要に応じて、始業・終業時間の変更などを柔軟に行なえるよう就業規則の内規を変更します。

（六十谷尚美）

News

きたまちクリニック 移転

２階には認知症グループホーム

西大寺北町にある「きらく舎」から徒歩2分のところに2階建ての建物ができ、この4月にオープンしました。1階に「きたまちクリニック」、2階に高齢者向けグループホーム「きたまちテラス」が入ります。どんな活動をしているのか、取材してきました。

◇ 『きたまちテラス』（2F）

「きたまちテラス」は、高齢者向けのグループホームです。西大寺で2001年から特別養護老人ホームを運営している社会福祉法人秋篠茜会が設立しました。認知症になってもできるだけ住み慣れた地域で生活してもらいたいという思いで作りました。市内在住で、認知症の診断がある人だけが利用できます。

9人のユニットが2つ、18人の定員はすでに埋まり、入居待ちも多数あります。入居者の多くが近隣に住んでいた人で、散歩に行くと変わらない街並みに懐かしがることもあるそうです。

残った機能を維持するため、掃除、洗濯、料理など、できることは自分でしてもらいます。毎日の料理は職員と利用者で作ります。初めは見るだけ、少し手伝うだけだった人が、自分から作るようにもなるそうです。

ここの良さは「毎日お日さんに当たれる」「入れ立てのお茶が飲める」ということ。毎日太陽を浴びることは、高齢者施設では人手の問題などでなかなり難しいそうですが、毎日散歩の時間を作り、実践しています。近所の保育園に寄って子供たちと交流することもあります。ただ、「開所して間もない今だからできることかも」、所長の松永瑠美さんは言います。年を重ね、認知症が進行していくと、外出が難しくなるからです。

◀ 各個室トイレ付き。3枚扉で車いすで入れます

費用は要介護1の人で月16.9万円と、市内で5本の指に入る安さです。加盟する全日本民主医療機関連合会の「無差別・平等の医療と福祉の実現を目指す」という理念を反映しています。

◇『きたまちクリニック』（1F）

「きたまちクリニック」は、精神科のクリニックです。同じ西大寺北町に2002年に開院しましたが、建物の老朽化もあり移転することになりました。

開院当時からあるデイケアには、2つのグループがあり、毎日15人ほどが利用します。1つは認知症予防のためのグループで、一般的な高齢者のデイサービスにはなじみにくい70～80代の男性が今の利用者の中心です。

▶ 外壁は明るいレンガ色

もう1つは一般的な精神科デイケアです。曜日ごとにストレッチ、散歩、お菓子作り、しゃべろう会などたくさんのプログラムがあり、参加は自由です。大きな部屋のほかに5つの活動室があり、ゲームや休憩など、活動や場所を選べます。コロナで中止されていた喫茶活動「小さな喫茶店」も、「またやりたいな」という声があり、今後検討する予定です。同じくストップしていた「麻雀」は、コロナが5類になったその日から早速再開しました。

同法人の吉田病院デイケアにはない「就労支援プログラム」があるのも特徴です。週1回、就労の1歩手前の人が、ハローワークの使い方、自己分析（どんな状況がしんどいのか、周りの人に配慮してほしいのはどんなことか考える）をしたりしています。これに参加するためにきたまちのデイケアを選ぶ人もいます。今後は2階のグループホーム入居者と一緒に何かできないか、と考えているところです。

（六十谷尚美）

News

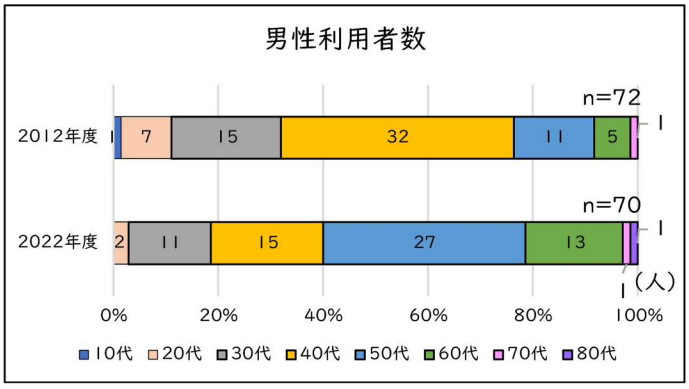
2022年度　実態調査結果
～通所系利用者 男女比と利用資源の変化～

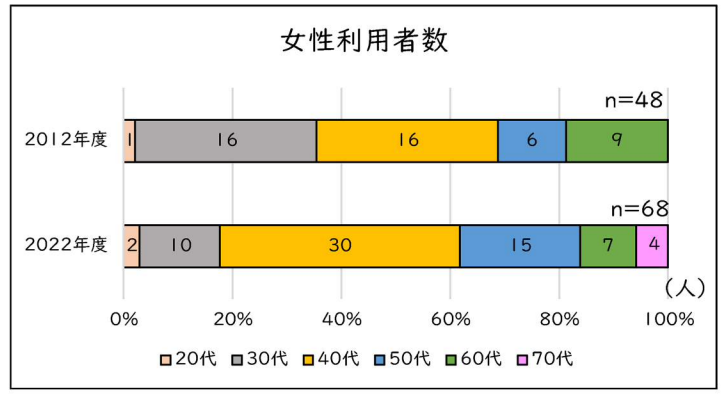
ゆいの会では、利用者の生活実態を把握し、今後の活動や取り組みにつなげていくことを目的に実態調査を行なっています。2022年度は利用者への聞き取りではなく、スタッフが利用者の基本属性や医療受診状況、利用年数について取りまとめる形での調査となりました。対象は寧楽ゆいの会全11事業所の利用者262人（2022年8月1日時点）です。

今回はその内の通所系利用者138人を取り上げ、10年前の調査と比較しました。（その他の詳細は『2022年度 社会福祉法人寧楽ゆいの会 活動の概要』を参照ください。）

【性別と年齢】

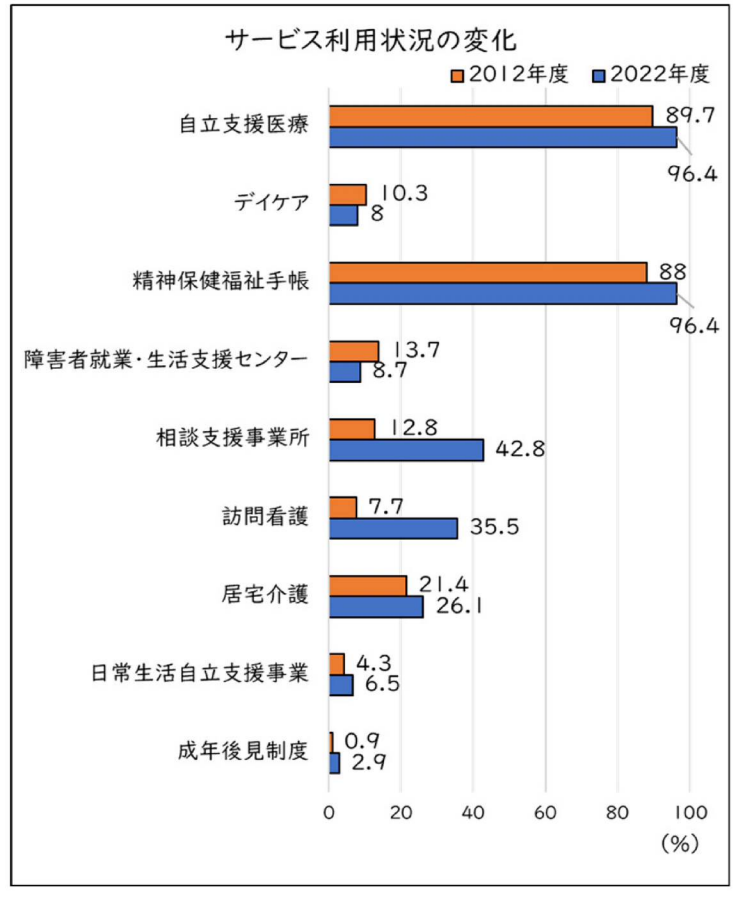
男女別の結果を見ると（下グラフ）、2022年度は男性は50代（27人、38.6%）が、女性は40代（30人、44.1%）が最も多くなっています。10年前の2012年度と比較すると女性の利用者が1.4倍に増えています。2022年度の男女比はほぼ同じでした。





【利用中のサービス】

2022年度と2012年度の福祉サービスや社会資源の利用状況が右グラフです。

利用割合が大幅に増えているのは相談支援事業所と訪問看護です。2015年度に障害福祉サービスの利用に計画相談が必須となったこともあり、奈良市の指定特定相談支援事業所数を見ると、2012年度の13ヵ所が、2022年度には48ヵ所になっています（休止中、この間に閉所した事業所を除く／奈良市ホームページから）。訪問看護は、奈良市にある自立支援医療（精神通院）指定事業所数が2012年度の14か所から2022年度には33ヵ所になっています（この間に閉所した事業所は除く／奈良県ホームページから）。ゆいの会も、2017年に訪問看護ステーションを設置しました。

日常生活自立支援事業は微増です。福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理を支援する事業で利用希望者は多いものの、奈良市社会福祉協議会では利用者が増えたため、2020年度途中からは新規の利用受付を休止している現状があります。　（藤原美里）